



牛の博物館
20周年記念

参加費:無料(公開)

【畜産・公開シンポジウム】

国際化と国産牛肉のブランド 戦略について考える

主催: 日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会

日本畜産学アカデミー、肉用牛研究会、奥州市牛の博物館

後援: 岩手県、奥州市

日時: 平成27年9月17日(木) 13:00~16:00

場所: 奥州市前沢ふれあいセンター 大ホール

私たちの食卓にも国際化の波が押し寄せています。牛肉は自由化に伴い国産牛肉の割合は今や40%台となっています。国内の肉牛生産は輸入牛肉に対する優位性を保つために各地で特色のあるブランド牛生産への取り組みがなされています。TPP交渉などに見られるように国際化は今後一層進展することが予想されますが、今後わが国の肉用牛生産がどのように展開していくのか、安全・安心、高品質が保証された牛肉を国民の食卓に安定的に届けるにはどうすれば良いのかなどの課題が肉牛関係者にとって重要になってきています。

そこで、第53回肉用牛研究会岩手大会では付帯事業として標記のテーマでシンポジウムを開催し、今後の国際化の進展とそれに伴うわが国農業への影響を考察し、肉用牛の振興を図るにはどのような対応が必要なのかを肉用牛関係者だけでなく一般市民の方々にも関心を持っていただき一緒に考えてみたいと思います。多数の方々のご参加をお待ちしております。

13:00~13:10 開会挨拶 佐藤 英明(日本学術会議 委員長、(独)家畜改良センター理事長)

基調講演

座長 木村直子(日本学術会議 連携会員、山形大学教授)

13:10~13:50 「農業と国際経営戦略」 三石誠司(宮城大学 食産業学部フードビジネス学科教授)

13:50~14:30 「国産牛肉のブランド戦略」 木村信熙(日本獣医生命科学大学名誉教授)

生産現場からの提言

座長 守屋 和幸(京都大学大学院 情報学研究科教授)

14:30~14:50 「6山6里方式と周年預託による肉用牛振興と地域の活性化」 千田 和明

(JAいわてふるさと 農協胆沢地域センター課長補佐兼牧場長)

14:50~15:10 「奥州市胆沢牧野を活用した増頭の取り組み」 高橋 先雄(繁殖経営者)

15:10~15:30 「前沢牛のブランド力向上への取り組み」 及川 哲郎(前沢牛生産者)

15:30~16:00 総合討論

座長 入江 正和(近畿大学 生物理工学部 食品安全工学科教授)

閉会挨拶 渡邊 誠喜(日本畜産学アカデミー会長・東京農業大学名誉教授)